

豊田とホタルと人

下関市立西市小学校(山口県下関市豊田町)

はじめに

下関市豊田町(以下豊田地域)は、山口県西部に位置する。豊田地域内には木屋川(全長43.7km, 流域面積264km²)と粟野川(全長29.8km, 流域面積185.9km²)の二つの2級河川が貫流し、それらに注ぐ多くの支流が網の目のように存在する。このように豊かな水環境を備える地域であり、昔からゲンジボタルの名勝地として知られていた。特に木屋川(写真1)はゲンジボタルの生息地として1957年に国の天然記念物指定されている。

ホタルは豊田地域のシンボルであり、観光・文化・国際交流・教育と多方面への影響をもたらしている。

ホタルの保護活動



写真1. 木屋川



写真2. 榎原のホタル飼育施設

環境の改変や悪化、乱獲により減少したホタルを取り戻すべく、1961年に旅館業経営の松田義則氏が中心となって「木屋川ゲンジボタル研究会」が組織された。研究会では今田岳村教諭(当時豊田東中学校)や大呑紀昭教諭(当時西市高校)による調査、研究が行われ、多くの知見が蓄積された。そして、1966年に国と県の補助により、榎原の簡易水道水源地横に、ホタル飼育施設が建設された(写真2)。しかし、この施設は度重なるトラブルにより維持が困難となり、1972年に文化庁の補助を得て上殿敷の神上川に第2の飼育施設(写真3)が建設されることになり、閉鎖されることになった。第2の飼育施設が造られ、このまま順調に進むと思われたホタルの保護活動であっ

たが、1976年に、ホタル保護の基礎を作った松田義則氏が亡くなり、更にホタルの研究を行っていた大吞教諭が転勤になるなど指導者を失ったことや、町からの助成金が少ないことなどにより、一時ホタルの保護活動は停滞した。しかし、1983年にゲンジボタル飼育委員会が発足し、西市小学校の一室にホタル飼育施設（写真4）が設置され、当時山口県農業試験場の技師であった児玉 行氏（現山口ホタルの会）指導の下、飼育・放流が行われた。しかし、児童数の減少などにより小学校での飼育は困難になるとともに、ホタルをより多くの人に知ってもらうために、2004年6月に豊田ホタルの里ミュージアムが開館し、ホタルの飼育や研究、啓蒙活動が引き継がれることになり、西市小学校の飼育施設は閉鎖になった。しかし、今年より再び、西市小学校のホタル飼育場においてホタルの飼育を再開する予定である。

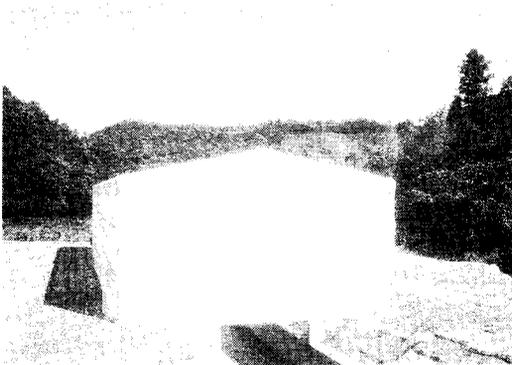


写真3. 上殿敷ホタル飼育施設



写真4. 西市小学校のホタル飼育施設

ホタルと観光

豊田地域ではホタルの保護とともに観光資源への活用が進められた。その一つが、1978年から行なわれている豊田のホタル祭り（写真5）や1991年から行なわれているホタル舟（写真6）である。これらは、現在も豊田地域および下関市の重要なイベントとなっている。

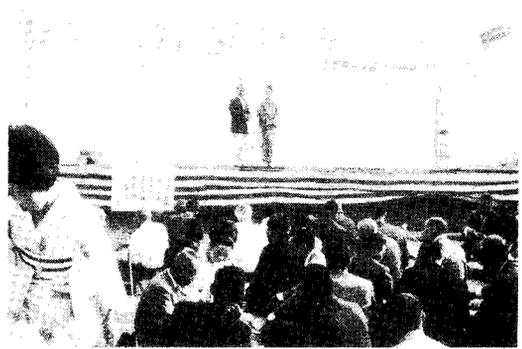


写真5. 豊田のホタル祭り（昭和40年代初期）

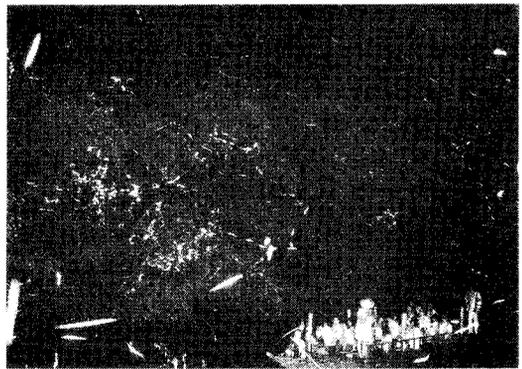


写真6. ホタル舟

ホタルと文化

ホタルは豊田地域の文化に大きな影響をもたらしている。特に、街中にはホタルを模した看板やマンホールの蓋など、いたるところでホタルを見ることができ、ホタルと人が非常に深い関係を持っていることがわかる。

ホタルと交流

ホタルがきっかけとなり、1992年から蜚雪の功で知られる中国の学者「車胤」

の出身地の湖北省公安県との国際交流が続けられている(写真7)。さらに、2002年には韓国東亜大学との交流も行なわれた。



写真7. 湖北省公安県との国際交流

ホタルと教育

豊田地域の教育にはホタルが深く関わっている。ホタル保護活動のところで少し述べたが、今田教諭、大呑教諭の指導の下、ホタルの調査・研究が教育に盛り込まれていたことをはじめ、西市小学校にホタルの飼育場が設置されてからは、西市小学校の児童によるゲンジボタルの飼育や餌であるカワニナの採集、生息地の掃除などが行われていた。さらに、ホタルを放流する際にはホタルさよなら集会(写真8)が開かれ、ホタルに関するクイズや地元有識者によるホタルの講話などが行われている。さらに、1989年からはホタルの飼育・放流だけでは十分にホタルのことを理解できないと、ホタル情報員制度が設けられている。これは、地域内の小中学生(4年生以上)約50名をホタル情報員に任命し、ホタルの発生時期に毎日自宅近くのホタル生息地で発生数などを調べるといったものである。この結果は毎年ホタル生息図としてまとめ、その年のホタル成虫の発生状況を把握する上で非常に重要なデータとなっている。また、最近では授業の中で児童自ら街角に立ち豊田地域住民のホタルに対する意識調査を行ったり(写真9)、ホタルの保護に関わる関係者に聞き込みを行った

り(写真10)、さらにはホタルとこの地域の人々がどのようにホタルと関わってきたかについての歴史を調べるなど、ホタルと住民がどのような関わりを持っているのか多面的に調べている。

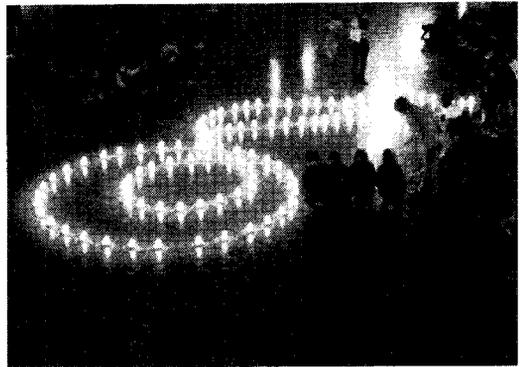


写真8. ホタルさよなら集会



写真9. ホタルに対する意識調査の様子

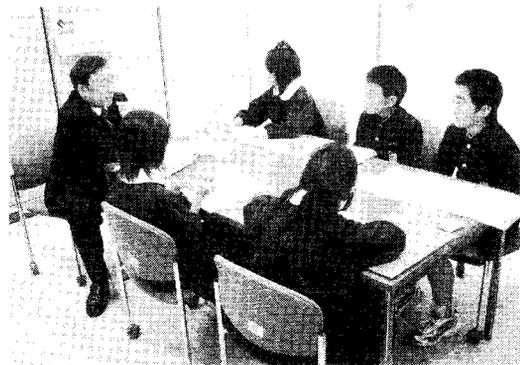


写真10. 行政のホタル保護への取り組みについてヒアリング

まとめ

豊田地域は、以上のようにホタルと人

との関わりが強いが、今なおホタルと人が関われるのは、先人の方々が必死になって守ってきたことに他ならない。2005年2月14日に旧下関市と合併したが、旧豊田町で制定されていた「ホタル条例」は下関市としても制定されるなど、ホタルを守ろうという想いは新市になっても引き継がれ、それは市の昆虫がホタルに

なったことが如実に示している。

今後も先人に感謝し、先人に恥じないようホタルが住める環境を保つことが、今を生きる私達の使命であり、そのためにはホタルに関するさまざまなことを自らで調べ、理解することが重要と思われる。